

産地魚類市場における水産物取引業務を省力化するデジタル化システムの開発

代表機関：株式会社ZIFISH

共同研究機関：株式会社W・I・Z、シカジロ合同会社、

一般社団法人フィッシャーマン・ジャパン

実施年度：2026年度（フェーズ事業化準備）

キーワード：水産物流通、デジタル化、魚類市場

研究代表者：江幡恵吾



アナログ作業に依存した水産物取引業務をデジタル化する水産物取引システムを確立する。「自動計量システム」を核に、電子取引基盤や流通ラベルによる物流改善を展開し、水産物取引の透明化と産地価格の適正化を促す。水揚げデータの蓄積を通じて資源管理を高度化し、持続可能な水産業と地域経済の活性化に貢献する。

背景・目的

水産物取引は、季節や地域によって扱う魚種や業務の流れが異なるため、全国で共通して利用できる仕組みが十分に整っていないことが課題である。本研究では、フェーズ2で確立した要素技術を統合して、水産関係者の要望に柔軟に対応可能な「水産物取引システム」を開発することを目的とし、実現場での実証を通じて運用面の最適化を図り、市場にサービス提供可能な段階まで完成度を高める。

目標

本研究では、水揚げ～販売～会計までの業務を一気通貫でデジタル化し、水産現場の深刻な人手不足を解消するとともに、適正な産地価格の形成を目指す。現場で水揚げデータをデジタル化する「自動計量システム」を起点に業務処理の自動化を図り、水産物EC・マッチング展開までを段階的に進める。

研究内容

1. 自動計量システムの汎用化設計およびAI-OCRによる入力支援の確立
現場ごとに異なる表記や運用の違いがあっても同じルールで扱えるように「自動計量システム」を汎用化し、多様な現場へ迅速に導入できる基盤を整備する。

2. アプリを通じた電子取引基盤システム開発

買受人の移動・待機負担を軽減し、アプリを用いた電子入札・リモート入札を実現することで、取引参加機会の拡大と公正な価格形成を図る。

3. 流通ラベルを活用した物流改善システム開発

計量・取引データと連動した「流通ラベル（RFID/QR等）」により、デジタルのまま荷を動かす仕組みを確立することで、消費地の荷受け業者等における物流現場の労働負担を大幅に低減する。



世界の水産業をデジタル技術で変革



<代表機関概要> 株式会社ZIFISH

■HP：<https://zifish.co.jp/>

■所在地：鹿児島市武一丁目2-10 JR鹿児島中央ビル4F

■連絡先：江幡 恵吾 <keigo.ebata [アット] zifish.co.jp>

「[アット]を@に置き換えてください。」

